

令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと



この度の地震で被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。発災直後からコープいしかわが組合員のため、職員のため、そして地域社会の一員として取り組んだことをご報告します。(1月23日現在)

1月1日(月)にマグニチュード7.6、最大震度7となる「令和6年能登半島地震」が発生しました。犠牲となられた皆さまにお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

県内全域で多くの方が被災し、特に能登地域で甚大な被害が発生しました。被災された皆さまの日常生活への影響は計り知れず、一日も早く皆さまの日常生活を取り戻すために、コープいしかわも組合員への支援、地域の一員としての支援に全力を挙げて取り組んでいます。

コープいしかわでは発災直後に災害対策本部を立ち上げ、役職員の安否確認を進めました。大変残念ながら2名の職員が帰省先で尊い命を失うこととなりました。本当に無念でなりません。心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

災害対策本部では、のとセンターをはじめ各施設の被害状況の確認を行ってまいりました。また道路状況や商品の納品状況などの情報収集も同時に進め、事業継続に向けた対応・対策に現在もあたっております。七尾市、羽咋市、中能登町、志賀町は1月10日(水)から配送を再開しています。しかしながら輪島市、珠洲市、穴水町、能登町では、道路状況などから配送を見合わせており、一日も早い配送再開に向けて準備を進めています。

コープいしかわでは、現在も余震や停電、断水が続く不安な中で暮らしている皆さまに少しでもお役に立つことができるように、日本生協連やコープ北陸事業連合、お取引先様のご協力を得て、行政からの要請に応え支援物資をお届けしています。

こうした中、コープいしかわだけで取り組みを進めるには残念ながら限界がありますが、日本生協連に支援の要請を行い、福井県民生協、とやま生協をはじめ全国の生協の職員が支援に駆けつけてきています。配送を再開したのとセンターでは、コープいしかわの担当者と支援の職員が2名体制で配送することで、安全を確認しながら商品のお届けができています。

いつの日か必ず、組合員と役職員そして地域の方が笑顔を取り戻すことができるように、皆さまと一緒に「心」をひとつにして「力を合わせ」「知恵を出し合い」地域社会や組合員の期待に応えていきたいと思っております。

最後になりますが、たった一つのかげがえのない命を守ることが何より大切です。コープいしかわは、組合員、役職員、地域の皆さまの命を守ることを最優先にこれからも寄り添い続けてまいります。

生活協同組合コープいしかわ 理事長 大谷 学 (1月19日記)



宅配再開に向けて

1月1日(月) 災害対策本部立ち上げ 職員の安否確認や被害状況の把握に努めました。

1月6日(土) 7日(日) 能登エリアの組合員へ電話連絡
のとセンターの月曜・火曜コースの組合員と、のと北部センターの組合員、内灘町の組合員へ電話をかけ、安否確認と配送中止のお詫びをしました。

1月8日(月) 9日(火) 地域担当者が訪問
のとセンターの地域担当者が組合員の安否確認とカタログ配布、道路状況の確認のため、2~3名体制で担当地域をまわり、組合員宅を訪問しました。

1月10日(水) のとセンターエリアでの配送開始

カタログの配布や訪問時に、配送できなかった商品の一部である飲料水、バナナ、パン、みかんをお渡ししました。高齢であったり避難所が遠かったりなどの理由で給水所へ行けない組合員さんへは、訪問時や配送時にコープの飲料水をお渡ししました。

商品をお届けすることができず申し訳ないと思いつつながら配達でした。その中でもパンをお渡しすると「本当に助かる、ありがとう」と言われ、心が軽くなりました。「気を付けてね」の一言で本当に頑張ろうと思えます。今こそお互いに支え合っていきたいなと強く思います。

のとセンター 越野 遼太郎さんの
1月9日(火)振り返りシートより

県内全域の 組合員さんから届く 自宅前の 道路状況画像

宅配事業では大雪や台風などの際に、組合員に安心して商品を受け取っていただくことや地域担当者の安全確保を目的に、組合員より自宅前の写真投稿を受け付けし、情報収集・状況把握を行っています。1月2日(火)以降、全県エリアの300名を超える「風水害雪害報告モニター」組合員から自宅前の道路状況を投稿いただいています。

のと北部センターエリアでの配送再開に向けて現地調査などを進めています。

のとセンター 職員のために

被災した職員への支援として飲料水や携帯トイレ、水のいらないシャンプー、ボディシート、ヘルメットや衣料品をのとセンターへ送っています。コープいしかわ独自の支援制度や公的支援情報をまとめた冊子を作成し少しでも早く普段の暮らしに戻れるように支援しています。



▲ 隆起したのとセンター
断水が続いています

全国の生協の仲間から

発災直後から全国の生協から多くの励ましや支援をいただき、石川の組合員と職員を支援するため駆け付けてくれました。1月6日(土)より日本生協連の危機管理担当者が災害対策本部に常駐しています。8日(月)には福井県民生協から10名、10日(水)には日本生協連から20名の職員がのとセンターに入りました。1月15日(月)からは全国の生協から毎週約30名の職員がのとセンター・湊センターでの配送同乗や組合員への電話かけなどを行っています。



▲ のとセンターの
朝礼に参加する応援者



▲ 電話対応の説明を聞く応援者の皆さま
さまざまな生協の制服が並びます



▲ みやぎ生協様からの
応援の色紙

支援いただいた生協(1月22日現在)

福井県民生協、とやま生協、コープさっぽろ、いわて生協、みやぎ生協、共立社、とちぎコープ、いばらきコープ、コープくまもと、コープみらい、ユニーコープ、パルシステム山梨、長野、パルシステム千葉、パルシステム静岡、コープながの、コープあいち、コープみえ、コープしが、京都生協、大阪いずみ市民生協、コープこうべ、おかやまコープ、コープまぐち、コープかがわ、エフコープ、コープ共済連

今後も多くの生協から支援のお申し出をいただいています

地域の一員として

災害時支援協定に基づき物資の調達

お届け日	行政名	お届け内容
1月4日(木)	金沢市	おにぎり200個、500ml飲料水5ケース
1月4日(木)	かほく市	おにぎり150個
1月4日(木)	中能登町	おにぎり1,000個、500ml飲料水45ケース
1月4日(木)	穴水町	2ℓ飲料水80ケース
1月4日(木)	七尾市	2ℓ飲料水合計260ケース
1月5日(金)		
1月4日(木)	宝達志水町	2ℓ飲料水合計80ケース、ブルーシート100枚
1月5日(金)		
1月12日(金)	珠洲市	パン約6,000個、インスタントスープ約1,170ケース
1月17日(水)~	野々市市	野々市市への避難者用おにぎりとおパンを毎日約100個
1月18日(木)	能登町	インスタントスープ約250ケース、ブルーシート48枚
1月19日(金)	輪島市	パン約6,000個、カセットコンロ用ガスボンベ480本

コープいしかわでは県内全市町と災害時支援協定を締結しています。物資を宅配トラックを使用して、要請のあった市町へお届けしています。要請のあった物資以外にもコープいしかわが提供しているものもあります。



▲ 1月12日(金)朝5時に
珠洲市に向けて出発



▲ 珠洲市健民体育館に到着すると
自衛隊などの方が支援物資を
降ろしてくれました

お届けできなかった商品を子ども食堂へ

配送中止によりお届けできなかった冷蔵商品や野菜、卵といった生鮮品をいしかわフードバンク・ネットを通して子ども食堂へお渡ししました。子ども食堂ではフードパントリー(食料品配布)などで活用いただきました。

能登半島地震災害支援募金 受付開始

店舗では1月5日(金)から、宅配事業では1月10日(水)から「令和6年能登半島地震災害支援募金」を呼びかけています。



▲ 1月18日(木)能登町の柳田体育館へ支援物資をお届け

令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと

このたびの地震で被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。コープいしかわが組合員のため、職員のため、そして地域社会の一員として取り組んだことを報告します。
(2月19日現在)



宅配事業 ~どこにいても、安心して利用が続けられるように~

穴水の一部で配送再開

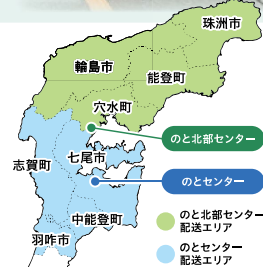
1月17日(水)~

配送再開に向けて道路状況の確認



1月24日(水)~

再開希望組合員へカタログ配布



穴水町での再開に向けて、利用を希望されている176名の組合員へのカタログ配布が始まりました。道路状況の確認をしながら、配送を休止したお詫びとともにお見舞いの気持ちを込めてカイロや水なども一緒にお届けしました。

2月5日週~ 配送再開



2月12日週より輪島市門前町の33名の組合員への配送を再開しました。
2月26日週から輪島市と能登町の一部で、3月11日週から珠洲市の一部で、配送希望の確認がとれた組合員に向けて宅配再開の準備を進めています。

震災後初めてお会いできた組合員さん。まだ断水中でお困りの様子でした。でも「簡単に気軽に食べられる商品を生協のカタログから探すのもますます楽しみになって！」と嬉しいお言葉を言ってくださいました。応援者のトヨタ生協の岡田さんと一緒に組合員さんとたくさん話をしてきました。

のとセンター 波間 紀紀さんの2月9日(金)の振り取りシートより

コープ共済 お見舞い訪問スタート

1月29日(月)~ 共済加入組合員へのお見舞い訪問



▲3週間でコープ共済連と全国の生協職員70名が支援に入りました



▲訪問の様子

被災したエリアの共済加入組合員約2,500世帯の訪問を進めました。訪問では、被害状況の確認とお見舞い金の手続きなどと併せて、カイロやコーすけのタオルなどをお渡ししています。

会話の間はこらえていらっしやったのか、折り鶴をお渡しした途端、せきを切ったように涙を流されお礼を言っていました。一人でも多くの方を訪問してお見舞い金制度について説明したいと思います。お見舞い訪問応援職員の日報より

全国の生協からの支援、応援

北海道から宮崎から 駆けつける生協職員

発災直後から全国の生協の職員がコープいしかわの組合員と職員のために、コープいしかわの配送応援をしてくれています。1月15日週以降は毎週約30名の職員がのとセンターに入っており、道路の状況確認やカタログ配布、配送を2名体制で行っています。



▲応援職員と一緒に朝礼



▲コープいしかわの職員と応援職員の2名体制で配送

門前町にカタログの配布・回収に無事行くことができました。途中で、通行止めの迂回などがあった不安でしたが、同乗いただいたコープえひめの林さんに励まされて、無事終了できました。とても心強かったです。

のとセンター 坂井 安人さんの2月8日(木)の振り取りシートより

同乗することで、多少でもコープいしかわの担当者さんの負担を減らすことができれば、組合員さんへの対応につながると思いました。

京都生協 応援者活動日報より

支援いただいた生協(2月9日現在)

福井県生協、とやま生協、コープさっぽろ、コープあおもり、コープあきた、共立社、いわて生協、みやぎ生協、パルシステム福島、とちぎコープ、コープぐんま、いばらきコープ、パルシステム山梨、長野、パルシステム千葉、パルシステム静岡、コープみらい、ユニーコープ、東都生協、パルシステム神奈川、生活クラブ連合会、コープデリにいがた、コープながの、コープぎふ、コープあいち、トヨタ生協、コープみえ、東海コープ、コープしが、京都生協、大阪いずみ市民生協、おおさかパルコープ、大阪よどがわ市民生協、ならコープ、コープこうべ、コープC5ネット、鳥取県生協、しまね生協、生協ひろしま、おかやまコープ、コープやまぐち、とくしま生協、コープかがわ、こうち生協、エフコープ、生協くまもと、コープみやぎ、コープ共済連、日本生協連

「がんばろう」「負けないで」
寄せられるエール
全国の生協からコープいしかわの組合員と職員に向けて、温かい寄せ書きやメッセージが贈られています。



のとセンター職員と応援職員



1月1日(月)

災害対策本部立ち上げ

1月6日(土)~7日(日)

能登エリアの該当組合員へ
配送停止のお詫びや
安否確認の電話連絡

1月8日(月)~9日(火)

地域担当者が安否確認と
カタログ配布のため
組合員宅を訪問

配送できなかった飲料水やパ
ナ、パンなどを提供。給水所へ行
けない組合員へコープの飲料水
を配達した。

1月10日(水)~

七尾市、志賀町、
中能登町、羽咋市での
配送開始

1月15日(月)~

全国の生協職員による
のとセンター配送同乗
支援開始

1月17日(水)~

奥能登での配送再開に
向けて道路状況の確認、
再開希望組合員へ
カタログ配布

1月29日(月)~

共済加入組合員へ
お見舞い訪問開始

2月5日(月)~

穴水町で配送再開

2月12日(月)~

輪島市門前町で
配送再開

2月13日(火)~

コープいしかわ職員が
のと・のと北部センターで
配送同乗し、他センターで
全国生協の職員が
2名1組で配送支援

2月26日(月)~

輪島市と能登町で
配送再開

3月11日(月)~

珠洲市で配送再開

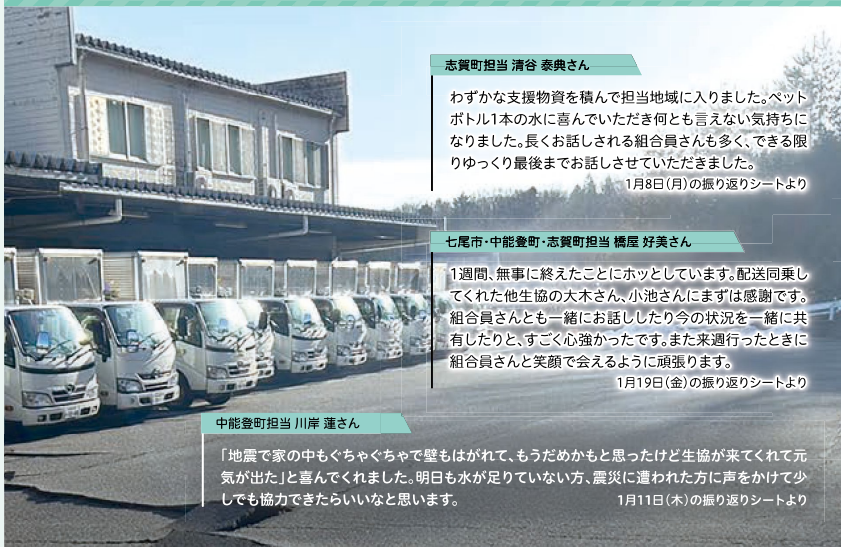
今回の
特集は

令和6年能登半島地震 みんなの声

発災以降、みんながさまざまな思いを持って、いろんな立場から互いを気遣い合ってきました。被災した組合員、能登へ心を寄せる組合員、傷ついた組合員に向き合う地域担当者、それを支える県外から駆け付けた全国の生協職員、速くから思いを届けてくれる全国の職員や組合員。それぞれが日々書き記した思いや会話、行動を「声」で振り返ります。

1月

※振り返りシート…地域担当者が書く日報



中能登町担当 川岸 蓮さん

「地震で家の中もぐちゃぐちゃで壁もはがれて、もうだめかと思ったけど生協が来てくれて元気が出た」と喜んでくれました。明日も水が足りていない方、震災に遭われた方に声をかけて少しでも協力ができたいなと思います。

1月11日(木)の振り返りシートより

志賀町担当 清谷 泰典さん

わずかな支援物資を積んで担当地域に入りました。ペットボトル1本の水に喜んでいただき何とも言えない気持ちになりました。長くお話しされる組合員さんも多く、できる限りゆっくり最後までお話しさせていただきました。

1月8日(月)の振り返りシートより

七尾市・中能登町・志賀町担当 橋屋 好美さん

1週間、無事に終えたことにホッとしています。配送同乗してくれた他生協の大木さん、小池さんには感謝です。組合員さんとも一緒にお話ししたり今の状況を一緒に共有したりと、すごく心強かったです。また来週行ったときに組合員さんと笑顔で会えるように頑張ります。

1月19日(金)の振り返りシートより

みやぎ生協石巻センター 組合員さん

震災から10年以上が経過して今は当たり前のように普通に生活していますが、当時は不安しかなく一日一日どうやって生活するか必死でした。大丈夫です。なんとかなりますから、頑張ってください。

みやぎ生協石巻センターからのメッセージ集より

生協くまもとのら支援職員

「地震が起こってから注文する元気もなかった」とおっしゃる組合員さんもいました。水が復旧していない中、貴重な水でコーヒーを出してくれた組合員さんをもて、身体も心もとても温かくなった一日でした。

1月31日(水)の支援者活動日報より

志賀町の組合員さん

元日に襲った地震。余震も続く中、不安な毎日。1月9日、いつもの時間に生協の車が止まり、ヘルメットを被った笑顔の配達。注文の品は届かなかったけど、甘いチョコレートパンとジュースをもらった。何よりもその笑顔に元気をもらった。ありがとうございます。

とらいあんぐるおたよりより

中島町・田鶴浜町担当 竹本 貴博さん

コープこうべの福山さんとペアでコースをまわりました。37歳同級生ということで意気投合し、車中では仕事からプライベートまでいろんな話をしました。福山さんがいなかったら、心細くて1人では心がもたないなと思いました。本当に助かりましたし、心からありがとうございます。

1月19日(金)の振り返りシートより

志賀町富来担当 北野 智恵さん

いつも笑顔で迎えてくださる組合員さん。今日も笑顔で迎えてくれたけど話してるうちに涙ぐまれて…。無理しとるんやろな～強がってるんやろな～と思いました。私は何もできず…ごめんなさい。ただ本当に無理だけはしないでほしいです。

1月29日(月)の振り返りシートより

鳥取県生協からの支援職員

職員さんは避難所生活にもかかわらずご自身の大変な状況は口にいさげず、組合員さんの様子を丁寧に聞き取り、心を寄せておられる姿がとても印象的でした。

1月29日(月)の支援者活動日報より

中能登町の組合員さん

七尾市も被害が大きかったのに、商品を配達してもらえたのは他の地域の生協さんの支援のおかげだったんですね。休まず配達してもらえてとても心強かったです。

とらいあんぐるおたよりより

2月



七尾市の組合員さん

今配達してくれる人がいろんな生協からの応援と聞いてありがたいと思っております。災害はいつあるかわかりません。一日一日感謝と思いやりを持って過ごしたいです。

とらいあんぐるおたよりより

CO・OP共済 お見舞い訪問 支援職員

「地震が起きて、いろんな人が応援してくれてありがたい。物だけじゃなくて、人の気持ちがすごく嬉しい。これからどうしたらいいかわからないけれど、一步一步頑張るしかないかな」と、絶望的な気持ちをお話しされました。神戸の地震のときも全国の知らない多くの方に支えてもらって、話と気持ち直した話をし、少しでも元気が回復していただけたかなと思います。

コープ共済連 お見舞い訪問報告より

輪島市担当 坂井 宏人さん

トラックが着いたとたんにかから飛び出て来られて「来てくれたんや…」と涙ぐんだ組合員さんがいらっしゃいました。よほど待っていてくれたのか…と嬉しかったです。

2月15日(木)の振り返りシートより

金沢市の組合員さん

生協さんを含め、災害救援のために支援してくださっている方々、本当にありがとうございます。自分はずっと変わらない生活を送っていますが、皆さまのお気持ちがありたく、涙が出ます。日常が1日も早く送ることができるよう、祈っています。

とらいあんぐるおたよりより

コープあきたからの支援職員

組合員さんに「各地からたくさんの方が能登に来てくれる。日本中が支えてくれる。気持ちが沈みがちだったけど、それを実感できて嬉しい。来てくれてありがとう」と言われました。同乗した担当者からも「一緒にいてくれて心強かったです」と言われ、被災地域の人々への秋田からでもできることをし続けたいですし、周りの職員にも伝えたいと思います。

2月2日(金)の支援者活動日報より

能登町松波地域で配送同乗をした人材開発部 佐原 貴之さん

地震だけではなく津波の被害も多数見受けられ、車が田んぼの中で流されていたり、船が何隻も陸地に押し上げられたりしていました。津波の被害を目の当たりにし、衝撃で心が痛くなりました。この地域は、私も昔に少しかだけ配達していた地域でもあったので、なおさら辛かったです。のとセンター・北部センターの職員が現場の最前線にいて、そこで毎日本当に頑張っているという事実を自部署で伝えたいです。心が折れそうになるときもたくさんあると思います。そんな中でも職員は元気に振る舞っていて同じ職員として尊敬します。のとセンター・北部センターの職員と同じ志を持って仕事をしていきたいと思います。

のとセンター支援報告より



3月



ユークープからの支援職員

組合員さんとお話しさせていただき、「大変だけれど前に進むしかないから頑張る」という強い言葉をいただきました。まだまだ元通りになるには長い時間がかかりそうですが、テレビではわからない現状を地元に戻って伝えることで長い支援を続けていきたいです。

3月11日(月)の支援者活動日報より

珠洲市・輪島市・能登町担当 西村 武博さん

先週まで通れなかった道が今日は通れるようになっていました。バックしたりUターンしたりをしなくてよくなったのでストレス無く配達できるようになりました。工事の方達の仕事に感謝です。少しずつですが普通に近付いている感じがします。長い道のりですが復興に向けてみんなが頑張っているのが分かります。

3月7日(木)の振り返りシートより

金沢市の組合員さん

週末を利用しては、志賀町の夫の生家の片付けにかけかかっていますが終わりが見え、暗い気持ちに陥りがちです。そんなとき、とらいあんぐる3月号の「コープいしかわが取り組んだこと」を読みました。全国の生協から寄せられた、「頑張ろう」「負けないで」の寄せ書きに、力をもらったような気持ちでいっぱいになりました。前向きでしゃんとしなくちゃの心が出てきたのです。ありがとうございました！

とらいあんぐるおたよりより

中能登町担当 梶川 真澄美さん

1人暮らしの組合員さんから「時間があるならお茶1杯どうぞ?」と誘っていただき少しお話ししてきました。「震災以来涙もろくなって、物忘れも始まって心配」と言われていましたが、今日は少しですがお話しして笑顔が見られました。

3月8日(金)の振り返りシートより

七尾市の組合員さん

もう3月になりましたね。断水も2カ月半。本当に我慢の毎日でした。まだまだ断水している場所があり、心が痛みます。体に気を付けて一日一日頑張らなと思っています。

とらいあんぐるおたよりより



令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと

コープいしかわは震災で被害に遭われた皆さまが日常の暮らしと笑顔を取り戻すその日まで、寄り添い続けていきます。組合員や全国の生協とともに社会の一員として取り組んだことを報告します。(4月9日記)



宅配事業

被災者・避難者コープ宅配料無料をお知らせ

被災した方、自宅外へ避難している方の暮らしを応援するため、右記の方を対象にコープ宅配料を無料としています。広くお知らせするため、3月末から能登エリアを中心に新聞折り込みを実施し、4月からFMでのラジオCMなどを開始しています。

コープ宅配料無料

珠州市 輪島市 七尾市
能登町 穴水町 志賀町
 県内に避難している方、避難者を受け入れている方
 新規加入の方も対象
 登録手続きが必要です

お問い合わせ・申し込みは **コールセンター 0120-759-853**

組合員を探して仮設住宅訪問

入居の始まった仮設住宅への訪問活動を開始しました。連絡の取れない組合員を探して、安否確認と利用再開のご案内をしています。また1月に安否確認と利用再開の意向伺いで連絡した際に「当面宅配を利用できない」と回答された組合員へ向けて、3月に入り断水解消や仮設住宅の入居などの変化があるため再度ご連絡をしています。



▲ カタログを持って輪島市の仮設住宅を訪問

CO・OP共済お見舞い訪問活動再開

被害状況の確認やお見舞いの手続きをするCO・OP共済契約者個別訪問活動が4月1日(月)より再開しました。奥能登での活動拠点の確保ができたことからコープ共済連や全国の生協からの応援職員が輪島市、珠州市、能登町、能登島での訪問活動をします。4月1日週のメンバー▶



全国の生協からの支援

2月13日(火)から始まった、能登エリア以外の配達センター14コースの配達を全国の生協職員に担っていただく支援が4月5日(金)をもって終了しました。県外から来たことを知った組合員からは感謝の気持ちが伝えられています。



支援いただいた生協(3月25日(月)～4月5日(金)) コープあいづ・コープあおもり・コープおまなわ・コープさか・コープこころ・コープさっぽろ・コープしがらみ・コープみらい(東京)・とちぎコープトヨタ生協・パルシステム山梨 奥野・パルシステム東京・コープわかやま市民生協・生協くまもと・日本生協連

仮設入居者へコープの調味料セットを

仮設住宅に入居する方へ少しでも安心して生活を始められるように、日本生協連のご協力を得てコープの調味料セットを提供しています。



調味料セットに同封する組合員からのメッセージ▶

能登町災害ボランティアセンター運営支援

コープいしかわから職員1名と1週間交代で計5名の職員を派遣しています。被災者からのニーズとボランティアをマッチングしたり運営面を担っています。



ボランティアが入る前の現地調査の連絡をする人材開発部の佐原さんと添センター頼来さん▶

災害NGO 結へアレルギー対応食の提供

継続的に支援活動を行い、被災地の課題に向き合っている災害NGO結から「輪島市の保育所のための小麦アレルギー対応の食材を、コープいしかわから提供してほしい」といった依頼があり、「みんなの食卓ミートボール」などの冷蔵商品4種20点を提供しました。

継続中

● 野々市市の2次避難所へおにぎりを毎日お届け。おにぎりは米心石川様が製造・納品。● 金沢市が給与するみなし仮設生活用物品を「くらしと生協」で調達。● 粟津温泉の2次避難所へ朝昼夕食を、小松センターとコープこまつから毎日お届け。

地域とともに

食の安全情報シリーズ 第17回

食品安全コミュニケーター育成講座 私たち学んでいます



コープ北陸主催、消費者庁共催、石川県・石川県立大学後援のもと開催している食品安全コミュニケーター育成講座。参加しているコープいしかわの組合員理事がレポートします。



今回の講義

情報の選択と伝達の方法 -リスクコミュニケーターの心得-
講師: 東京大学名誉教授 食の信頼向上をめざす会 代表 唐木 英明氏

より私が伝えたいこと

私たちはたくさんの情報の中から、根拠のない危険情報や不安情報を排除し、科学的に正しい情報は信頼のおけるところから得なければいけない、ということが心に残りました。



コープいしかわ 組合員理事 加賀 千鶴子さん

安全なのに不安に思う人はなぜ多いのでしょうか?

それは不安を煽り誤解させて儲かるビジネスなど、偽情報がたくさんあるから。

恐怖 危険に出会ったときに起こる感情で、「逃げる」という行動につながる。恐怖感がないと逃げないため死に絶える。	不安 危険を逃れるための感情。対象がよく分からないときには不安になる。「正体が分からないものは危険」と判断して直ちに逃げ出す。	人は目に見えない物やよく分からない物は危険と判断し、本能的に回避します。 現代の「よく分からないもの」 添加物、残留農薬、遺伝子組み換え、放射能...	安全 聞き逃しても何の問題も起こらないから「安全」という情報には注意を払わない。
---	---	---	--

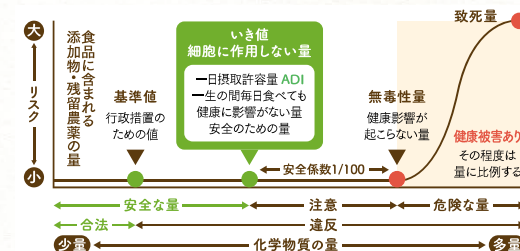
その結果何が起るのか? 危険情報は売れる! 安全情報は売れない。世の中にも流れる情報は危険情報ばかりになる!



安全か危険かは量で決まる

「食品添加物は怖い」という人もいますが、食品添加物などの化学物質には「いき値」が設定されています。「いき値」とは、人が一生の間毎日食べても健康に影響が無い量・安全のための値です。さらにそれより少ない量が基準値となり、食品に含まれる添加物や残留農薬は基準値よりさらに少ないのです。

化学物質の用量作用関係





令和6年能登半島地震 能登を笑顔に つながり力を

発災以降、組合員や全国の生協とともに、被災した組合員や地域の暮らしを取り戻すため様々な場面がありました。復興への歩みはこれからですが、これまでを画像で振り返ります。

全国の生協の組合員や役員から励まし、ねぎらいのメッセージ

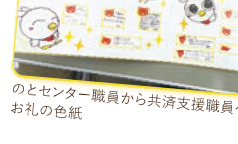
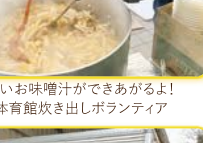
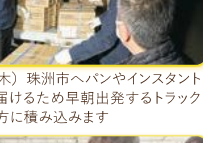
積雪の被災エリアを走るコープのトラック



1月3日(水) 自治体から要請のあった支援物資の積み込み



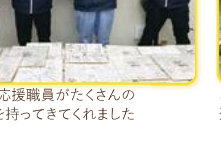
1月6日(土) 能登エリア組合員の安否確認電話がけのために出勤した本部職員の朝礼



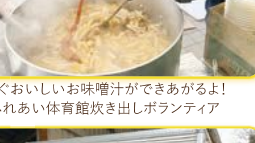
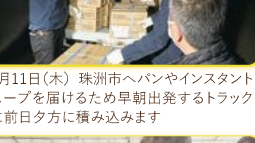
のとセンター職員から共済支援職員へのお礼の色紙



全国からの応援職員がたくさんメッセージを持ってきてくれました



コープいしかわ職員がのと北部センターの配達に同乗し、能登の現状を学びます



1月11日(木) 珠洲市へパンやインスタントスープを届けるため早朝出発するトラックに前日夕方に積み込みます

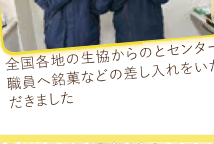
もうすぐおいしいお味噌汁ができあがるよ！ 額谷ふれあい体育館炊き出しボランティア



2次避難所でのボランティア 組合員講師による体操でリフレッシュ



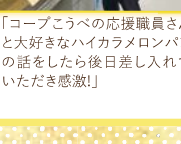
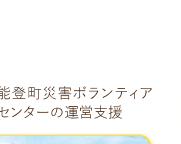
落石が残る道路を通過して配達



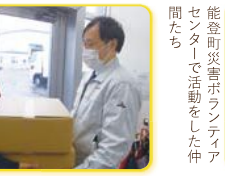
小松センターで配達応援をする福井県民生協のお2人 配達の仕事も同じなので即戦力！



共済のお見舞い訪問応援職員がのとセンターに到着



珠洲市の健康体育館から避難所への物資輸送支援



米心石川様からおにぎりを受け取る野々市市の2次避難所へ



入居前の仮設住宅にコープの調味料セットをお届け



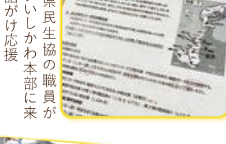
2次避難所の粟津温泉へコープこまつから昼食用お弁当をお届け



能登町災害ボランティアセンターで活動をした仲間たち



配送に行けるか組合員宅までの道路状況を確認



福井県民生協の職員がコープいしかわ本部に来て電話がけ応援

のと北部センターで配達同乗をするコープこまつ梅谷店長

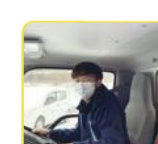
コープえひめからの応援職員と一緒に配達



増え続ける温かいメッセージ



2次避難所の粟津温泉へコープこまつから昼食用お弁当をお届け



コープしがからの応援職員と配達に



応援職員とのとセンター職員のパを発表するのとセンター朝礼

令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと

コープいしかわは震災で被害に遭われた皆さまが日常の暮らしと笑顔を取り戻すその日まで、寄り添い続けたいです。組合員や全国の生協とともに社会の一員として取り組んだことを報告します。(5月8日記)



どこにいても安心して利用ができるように

コープのつながりを復興の力に

地域とともに

組合員を探して仮設住宅を訪問

安否確認や避難先の確認が取れていない組合員の所在確認を進めるため、入居の始まった仮設住宅を訪問しています。また、生活環境が変わりお買い物に不便を感じている方へ、コープの宅配が暮らしのお役に立てようご案内しています。



「能登復興推進室」ができました

コープいしかわが進める能登半島地震からの暮らしの再建や復興に取り組むため新部署ができました。



マネジャーの荒井昌亨さんと川岸 蓮さん ▶

CO・OP共済お見舞い訪問

4月1日(月)から再開した、コープ共済連と全国の生協職員によるCO・OP共済契約組合員へのお見舞い訪問活動は、珠洲市、輪島市、能登町、七尾市能登島での訪問活動を4月12日(金)で終えました。671件のお宅を訪問し209件お会いすることができました。今後も住所が不明な方や留守だった方への対応を検討していきます。

トラックに復興支援ロゴ

コープいしかわの復興の取り組みのシンボルとなる復興支援ロゴを配送トラックなどの業務車両に掲示しています。役職員もワッペンを装着しています。



コープデリ連合会、コープみらいから3名がコープいしかわへ1年間の支援職員派遣

コープデリ連合会、コープみらいでは、コープいしかわ長期支援のための出向者を募集したところ、14名の方が手を挙げてくださったそうです。その中から面接などを通して選ばれた3名の方が、1年間石川県に住み、奥能登地域を配送すると北部センターで地域担当者として配送を担っていただきます。

4月15日(月)、3名の職員の出向に先立って、日本生協連の土屋会長、嶋田統括専務、コープみらいの熊崎理事長、永井副理事長、古賀副理事長、駒形理事がコープいしかわを訪問しました。お見舞いのあいさつした後、コープみらいの組合員、役職員からのメッセージが書かれたたくさんの色紙を贈呈いただきました。



◀左から
森川 淳さん
(コープデリ連合会(株)トラスティック)、
徳田 和博さん(コープみらい)、
佐々木 健介さん(コープみらい)
コープデリ連合会▽
コープみらいを含む生協の連合会
コープみらい▽
千葉、埼玉、東京を事業エリアとする生協



色紙には二次元コードが付いていて、コープみらいの総代会議で組合員や役職員がメッセージを書いてくれる動画が見られるようになっていました。

能登地域協議会が避難所でお菓子の配布

4月16日(火)、避難所となっている矢田郷地区コミュニティセンター(七尾市)で能登地域協議会がお菓子の詰め合わせを避難している方へ配りました。能登地域協議会では、ボランティア活動を通して行事の開催時にお世話になっているコミュニティセンターのお役に立ちたいと考え、みんなで打ち合わせや買い出しなどの準備をしました。



袋詰め
のとセンターでお菓子の詰め合わせを作る能登地域協議会のみなさん。リクエストのあった和菓子を中心にしました。



配布
お昼ごはんの際に直接お菓子をお渡しでき、喜んでいただきました。



寄贈
地域協議委員会が手作りで復興ロゴ看板を目にした避難者の方や職員から「元気が出る」とおっしゃっていただき、看板を寄贈しました。避難所の応援メッセージコーナーに設置していただけることになりました。

能登町災害ボランティアセンター運営支援

全国の生協職員が交替わりで能登町の災害ボランティアセンターの運営支援に入っています。コープいしかわからは常駐職員1名を派遣しています。



継続中

- 野々市市の2次避難所へおにぎりを毎日お届け。おにぎりは米心石川様が製造・納品。● 金沢市が給与するみなし仮設用生活用品を「くらしと生協」で調達。● 輪島市で避難者向け弁当約2,000食を毎日、各拠点まで納品。● 粟津温泉の2次避難所の食事を毎日お届け。昼食はコープこまつ、夕食は小松センターから弁当を配送。● 日本生協連の協力を得て、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町での仮設住宅入居者へコープの調味料セットをお届け。

Q 「COOP やわらかワンタッチコアノン シングル 130m×6ロール」が以前と比べて紙質が何となく固く感じます。変わりましたか？



組合員の声

A 紙質や製造方法などの仕様変更は行っておりません。

この商品は、再生紙(古紙)100%で、古紙の原料自体には材質のバラつきがあります。トイレトーパーの品質管理は、坪量(1㎡当たりの原料の量)や破裂強度、水への解けやすさが基準となっており、これをクリアしない商品の出荷は行っておりません。ただ、近年ではリサイクル率が向上し、2回、3回と繰り返し再生された古紙が企業から出るようになったことで、原料となる古紙は紙の繊維が短いものがあり、紙質に若干違いが出てしまうことがあります。おそらく紙質自体は基準値内であったものの、原料に由来する若干のバラつきが発生していたことから“紙質が固くなった”と感じられたものと思います。今後はできるかぎり安定した品質のものをお届けできるよう、品質管理の強化に努めてまいります。

Q 「ずっとおいしい豆腐は、箱に「常温保存可能品」と書かれているのに、冷蔵でお届けされました。常温で保存しても大丈夫ですか。

A 再度常温に戻しても品質に問題ありません。

「豆腐が冷蔵品になっていない」などの混乱を避けるため冷蔵商品としてお届けしました。この商品を常温から冷蔵にし再度常温に戻した際の品質についても、製造メーカーに確認した結果、問題がないといった見解もございました。しかしながら、今回のように温度帯を冷蔵品にしてお届けしたことでご心配をおかけすることになりました。今後、ロングライフ商品を取り扱う際には、紙面のご案内の方法をさらに考慮してまいります。



コープいしかわの姿

2023年4月1日～2024年3月31日

	予算	実績	前年
宅配事業供給高(億円)	151.2	142.5	148.1
店舗事業供給高(億円)	40.1	42.5	37.8
経常剰余金(億円)	1.3	1.5	2.3

出資金：71億1,043万円(↓5億2,648万円)
組合員数：165,784人(↓2,635人)

3月度安全確認情報 (2月21日～3月20日 検査結果判明分)

検査名	検査実施数
新商品事前	219品
定例企画商品	283品
残留農薬検査	7品
ヒスタミン検査	1品
アレルギー検査	3品

組合員の環境貢献度(4月度)

商品カタログ回収率 **65.9%**
注文書袋・保冷箱内袋回収率 **23.6%**

理事会だより

2023年度 第11回 4月25日(木)開催

承認及び報告された主な議題は次の通りです。

決まったこと

- 3月度事業・経営報告 承認の件
 - 仮設住宅に入居する方へコープ商品が入った調味料セットのお届けを2月29日(木)より能登町、3月15日(金)より珠洲市、3月21日(木)より輪島市で開始しました。
 - コープ被災地支援センターでは、能登町での災害ボランティアセンターに、職員の派遣を順次進めました。
 - 3月11日(月)から珠洲市の配送を再開し、のと北部エリア2市2町全ての地域で配送再開となりました。また、3月18日週より、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、七尾市、志賀町を対象に、コープ宅配無料支援を開始しました。
 - 息の長い取り組みが望まれる能登半島地震からの復興に向けてコープいしかわの復興の取り組みのシンボルとなる復興ロゴ「負けとられん!能登を笑顔に」を制作しました。
- 2023年度決算(案)と剰余金処分案 承認の件
6. 県外在住組合員の加入 承認の件
3. 役員人事委員会答申 承認の件
7. コープ北陸第28回通常総会代議員の選出及び役員候補推薦の件
4. 役員人事委員会答申などを踏まえた 申し送り事項 承認の件
8. 石川県生協連第59回通常総会代議員の選出及び役員候補推薦の件
5. 第25回通常総会代議案書(第1号議案) 承認の件

報告されたこと

1. 福祉事業に関する規程の改訂について
2. 2023年度内部統制振り返りと2024年度の取り組み計画などについて
3. 第9次中期計画策定の進め方について

Refresh Time

リフレッシュタイム

おうちでできるワンポイント体操

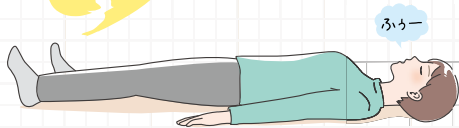
池田 由衣さん



骨盤はその人の生活習慣によって開いたり、左右差がでたりします。骨盤のゆがみを整えると骨盤が縮まり、骨盤周りの血流が良くなり、体がぽかぽかしてきます。寝る前に行うと背骨の内側にある自律神経が調整され、眠りが良くなります。コープいしかわ教養会講師で一般社団法人体力メンテナンス協会 体力指導士の池田由衣さんに教えていただきました。

寝る前の骨盤ケア

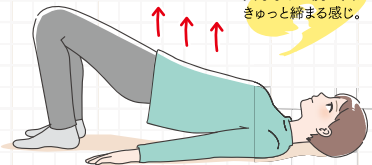
まずは骨盤を正常な位置に戻す。



STEP 1

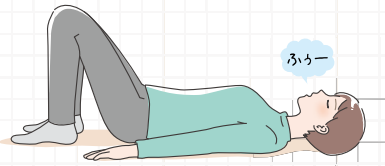
仰向けに寝る。足幅は肩幅よりやや広めて、両手の平を下に向ける。鼻から大きく息を吸い、吐きながら体の力を抜く。

太ももやお尻の穴がきゅっと締まる感じ。



STEP 2

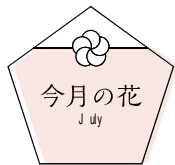
両足を立て、お尻の近くに引き寄せる。両手で体を支え、鼻から大きく息を吸いながら、骨盤をゆっくり持ち上げていく。首の後ろから膝までをぐっと持ち上げ、おへそを天井に向けるイメージ。



STEP 3

息を吐きながら、首の後ろからゆっくり下ろしていき、全部床に着いたら息を吐き切って脱力する。②～③を3～5回繰り返す。

毎日または2日に1度、習慣化しましょう。起床時に行うのも効果的。スムーズに目覚められます。下垂した内臓を本来の位置に戻したり、お尻がきゅっと引き締まったりして、筋トレ効果も期待できます。
※骨盤を上げるとき、どこかに痛みを感じたら無理をしないようにしましょう。



今月の花
J dy

みんなの画像投稿コーナー

ガッツアリアダブルピンク

— 白山市 へびさんママさん —

6月頃から次々咲いています。父が植えたのですが、初めて咲きました。

あなたの写したお花の画像募集中!

9・10月に咲く花の画像を募集します。掲載された方には500ポイント進呈。



宅配ものがたり

組合員さんと地域担当者の会話をもとにつづるほっこりエピソード

これからもおいしい商品教えてね♡

担当地域が変わって初めての配達時、ある組合員さんとのごあいさつから、コープの「たまごスープ」の話になりました。「えっ?今まで担当さんから商品のおすすめされたことなかったんやけど、若林さんおすすめしてくれるの~!!」と言われました。そして、「こうやっておすすめされたらうれしくて...これからもおいしい商品、教えてね♡」と、その場で「たまごスープ」をご注文いただきました。私もうれしいです!

古府センター 新神田・米丸・中央・押野地区担当 若林さん



ホームページ・SNSで宅配ブログを掲載しています。



令和6年能登半島地震 コープいしかわが取り組んだこと

コープいしかわは震災で被害に遭われた皆さまが日常の暮らしと笑顔を取り戻すその日まで、寄り添い続けていきます。組合員や全国の生協とともに社会の一員として取り組んだことを報告します。(6月11日記)



どこにいても安心して利用できるように

組合員を探して仮設住宅を訪問

組合員の安否確認や、避難先の確認が取れていない組合員の所在確認を進めるため、仮設住宅を職員が訪問しています。また生活環境が変わり買い物に不便を感じている方へコープの宅配が暮らしのお役に立てようご案内しています。



5月30日(木) 能登町の仮設住宅訪問▶

復興の力に

買って支える! じわもーで復興応援企画スタート

被災した生産者やメーカーの商品や能登の原料を使用した商品を「じわもー」で企画し、組合員にご利用いただくことで支援につなげます。それらの商品を集めた復興支援特集を6月11日に実施し、4,069名の方からご利用いただきました。



今回の特集は8月1回予定です▶

地域ととも

輪島市の重蔵神社で大学生のボランティア拠点となる巨大テント寄贈

復興ボランティア活動の拠点となる緊急支援用テント2張を金沢大学に寄贈しました。建物の損壊で活動拠点となる場所が不足している奥能登で金沢大学などの学生がボランティア活動の拠点とするため、日本生協連、日本ユニセフ協会、コープいしかわ、日本生協連の物流子会社CXカーゴの4者が連携して寄贈することになりました。

5月11日(土)、輪島市の重蔵神社の駐車場で日本生協連や石川県ユニセフ協会、コープいしかわの役員が40人余りの学生の皆さんとテントの設置をしました。今後、学生ボランティアがこのテントを拠点に物資の配布や重蔵神社の復興支援などを行っていきます。



縦6m×横12mの大型のテントを設置。このテントは、大規模な災害発生時に学校の仮設教室などとして使用するために保管されていたもの▶

穴水町へのボランティアバス運行

6月から災害ボランティアセンターで組合員や役員が日帰りで活動ができるボランティアバスの運行を開始しました。6月、7月には各2回、穴水町災害ボランティアセンターへ派遣します。6月8日(土)、13名の組合員と役員が中型バスに乗って穴水町へ向かい、ボランティアに参加しました。



能登で初めてボランティアに参加しました。大きな家財を解体したり本や食器をバケツリレーで運んだりとみんなていっような工夫をして作業しました。



被害を受けたお寺から家財やピアノを運び出す▶

災害ボランティアセンター運営支援

6月より2か月間を目途に、毎週金曜日から日曜日の3日間、コープいしかわと日本生協連、全国の生協職員各1~2名が穴水町災害ボランティアセンターでの運営支援を行っています。



穴水町災害ボランティアセンターにはいろいろなCOOPのピズが▶

継続中

- 野々市市の2次避難所へおにぎり50個を毎日お届け。おにぎりは米心石川様が製造・納品。野菜ジュースを提供。
- 金沢市が給与するみなし仮設用生活用品を「くらしと生協」で調達。
- 輪島市で避難者向け弁当約1,400食を毎日、各拠点まで納品。
- 粟津温泉の2次避難所の食事を毎日お届け。昼食はコープこまつ、夕食は小松センターから弁当を配達。
- 日本生協連のご協力を得て、仮設住宅の入居者へコープの調味料セットを本部職員が中心に支援体制を組んでお届け。

組合員ができることから復興支援に取り組み応援ボランティア登録募集中!

登録はこちらから

